



令和3年度(2021年度) 学校評価(各評価項目)

令和4年(2022)2月9日職員会資料 学校評価委員会

領域	対象	評価項目 <small>※大数字は重点目標との関連</small>	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学習指導	②	授業の充実・改善	学び直しや習熟度別学習等の授業展開を工夫することにより基礎学力の定着を図り、キャリア教育を意識した授業実践に取り組むことができたか。	各教科の取り組みを経て、年に2回「基礎力診断テスト」を実施した。実施後は、2学期末にベネッセ担当者との係で検討会を実施し、それぞれの学年の指導の参考とした。基礎力診断テストの結果から学び直しの効果も確認できた。さらに面談等における対話も兼ね基礎学力の向上を継続していきたい。			○	「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、具体的な改善策を考え、授業に役立てていきたい。また、各学年や教科が連携してキャリア教育の推進を進めていけるように努力したい。
			「授業の五か条」を定着させることができたか。	年度当初に「授業の五か条」を各教室に掲示し、その重要性を再確認させた。また生徒会による「松高スマホルール3ヶ条」と振り返りアンケートを取っていくことで、授業の受け方について考えさせることができた。今後も、生徒会とも連携して生徒の意識を高め、学校全体で授業の質の向上について考えていきたい。			○	年度当初を始め、折を見てルール確認は今後も継続したい。生徒会活動により授業の2分前着席や「松高スマホルール3ヶ条」、定期テスト前日の「断スマ」など生徒の意識が高くなりつつある一方、ルールを守れない生徒も増加の傾向にあることは否めない。来年度以降も学校全体で授業に関する指導の徹底を図るとともに、生徒の意識の向上に役立てていきたい。
			授業研修の機会をもてたか。	今年度は公開授業等の中止や制限があり残念であったが、初任研等を中心に、相互に授業を参観することにより、授業改善の機会として役立てることができた。			○	授業公開週間のみでなく、日頃から各教科内や教科の枠を超えて、授業を参観し合い、授業改善につながる研修を深めたい。また、新たに整備されたICT機器を有効活用し授業を充実させたい。
教育課程	③	教育課程及び個に応じたエリア選択の設定	エリア選択のガイダンス指導は適切にできたか。	1学年のエリア選択説明会および体験授業を実施し、各自の進路希望実現に向けて、適切なエリア選択ができるよう指導した。担任を中心として個々の生徒に対する適切な指導により、エリア人数の調整ができた。			○	エリアの選択は、進路を左右する重要な決断である。進路指導と連携して全体の進路意識の高揚を図るとともに、個別指導を通して早めに進路の方向を決定し、保護者の同意も確認した上で、慎重にかつ的確に指導していく必要がある。
			エリア制の目標に即してカリキュラムの充実を図ることができたか。	「総合的な探究の時間」を通して自らの進路をどう切り拓くかを考えられた。来年度も全学年が授業を同時に行うので学校全体での充実を図りたい。2年課題探究エリア必修「キャリア探究」では、飯田市の「つなぐ事業」と連携し、地元企業について学習を深めることができた。			○	「総合的な探究の時間」を有意義な時間とするために多方面から情報を収集してさらに充実した内容となるよう研究したい。また、令和4年度からの新教育課程を編成しシラバスの作成を行った。今後も実施に向けてさらに研究と続けたい。
進路指導	③	関係諸団体と緊密な連携を図ること 進路指導上必要と思われる情報の収集、管理、提供の確実に行うこと	関係諸団体との連携を図りつつ、進路指導上必要な情報収集、情報提供を行うことができたか。また適切な情報管理がなされたか。	監督官庁・商工会等の関係諸団体との連携は十分になされたといえる。本年はコロナ禍によって、産業視察・地域企業説明会等の生徒・職員の参加型行事が一部中止となり、生徒たちの進路学習の機会が制限され残念であったが、関係諸団体と緊密な連携を取りつつ生徒・保護者に有益な情報提供を心がけた。また、進路指導に関する情報管理については、法令・通達等に基づき細心の注意を払い適切に行ってきた。			○	他校の進路指導担当との情報交換・連携も十分に行っていく必要がある。新型コロナ感染対策を常に考慮しつつ、関係諸機関・諸団体にこれまで以上の協力を仰いでいく。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちが職種選択・事業所選択を行うにあたって非常に有益であるので、可能な限り協力をお願いし、参加していきたいと考える。
			大学・短期大学・専門学校の内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。	各校のオンライン等を利用した学校紹介・公開授業の企画・実施(主としてコロナ禍による)予定を希望者に呈示し、オンラインガイダンスの有効活用を促した。大学・短大・専門学校の広報担当者より入試制度、新型コロナ感染防止対応等の必要情報を収集し、希望生徒・保護者に適宜的確に情報を提供することに努めた。			○	今後も新型コロナ感染対策を行いつつ、様々な制約下での進路情報の提供を適切に行っていかななくてはならない。進路指導関係の外郭団体にこれまで以上の協力を仰ぎ、参加スタイルに工夫を凝らしていただき、生徒対象の学校説明会に参加させていきたい。大学・短大・専門学校との連携を強化し、出張説明会・出張授業等を実施することで生徒への的確な情報提供を行う。
			生徒の自主的な進路選択が可能となるように必要かつ有益な情報提供を行い生徒一人ひとりに対する万全のサポート体制をつくりあげること	各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業への決定に有益な情報を提供することができたか。	管轄ハローワークおよび各事業所の採用担当者よりいただいた新卒求人情報を基に、事業所選定にあたっての有益な材料を提供することができた。特に直接推薦依頼をいただいた地元(南信地区)事業所の求人情報を重点的に呈示し、生徒たちの地元有力企業への受験を促すことができた。			○
教育活動	①	安全な学校生活の保障	いじめや問題行動に対処したか。	担任・生徒支援・生徒指導などの連携による情報収集を行い、問題行動があった場合には学年・生徒指導を中心に、迅速かつ的確に対応できている。			○	迅速な対応と正確な調査を念頭に指導が進められてきたが、SNSの利用、特に画像アップに課題があり、さらなる指導や生徒会と連携をしていきたい。
			基本的な生活習慣の確立	挨拶・通学マナー・上下履きの区別・その時にふさわしい身だしなみの定着ができたか。	多くの生徒が良い挨拶をすることができている。通学マナーについては常々諸方面から指摘がある。身だしなみについては、生徒会と連携して行うことができた。			○
生徒指導	①	基本的な生活習慣の確立	スマートフォンについて、ルールやマナー、使い方を生徒が主体的になってコントロールできるように指導できたか。	生徒自らが作るルールを生徒会が主体的になって実践してきたが、今年度は画像・動画アップでの指導が多かった。生徒会中心で継続して行っているが、マンネリ化している感もあった。			○	SNS・スマホに関してのアンケートを行い、現在の生徒の実態を把握することが大切であると考えている。また、生徒会と協力し、生徒一人一人が自分のスマホ・SNSに利用に対しての実態を把握した上で、現在の生徒に合わせた「スマホルール」を検討することが大切だと考える。

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
生徒会	④	生徒会活動やクラブ活動の活性化	生徒会の行事や活動を主体的に企画・運営させるとともに、全会員を意欲的に参加させることができたか。	3年目となった「松高スマホール」だが、生徒会役員は主体的にルールと関わろうとする姿勢が見られる。良い意味で捉えたとルールが定着してきたと言えるが、その反面、ルールの施行が惰性となってしまっている感も否めない。また、授業のみならずSNSでの使い方も現状の生徒の課題となる。		○	何のために「スマホール」の作られたのか、その経緯・意味をしっかりと引き継ぎ全校生徒に浸透させていく必要がある。また、生徒の現状に即して、ルールの改正や新たな取り組みを考えて行く必要がある。	
			生徒会の活動方針やテーマを全会員に理解させ、それに則した活動を日常的に継続して展開させることができたか。	「実現から躍進へ」のテーマのもと、生徒たちが作り上げたものを根付かせるために活動ができた。全校ディスカッション、NEO班活動、松高祭などを通じ、全校生徒をさらに巻き込んでいくことが課題。		○	コロナ禍の中でも、可能な限り全校生徒が協調、活動しやすい環境を創り、全校ディスカッションや文化祭等の行事を通じて、役員が積極的かつ主体的に働きかけて全会員を巻き込む活動を行っていく。	
			クラブ活動に目標を持って自発的に取り組ませ、意欲的な参加の姿勢を養うことにより、活動を活性化することができたか。	昨年度に比べると、部活動は概ね予定通りの活動ができた。不規則な活動時間やコロナ対策により課せられた制約の中でもモチベーションを保ちながら活動できるような集団作りが課題。		○	部活の活動場所や活動時間の工夫。また、部活動におけるコロナ対策の徹底や不規則な事態に柔軟に対応できるような連絡方法やマニュアルの作成も必要である。	
	④ ⑤	生徒会活動、クラブ活動による自発的意欲と実践力および自治能力の育成	生徒会活動など特別活動の指導を通じ、生徒の社会参加を図り、地域に貢献する取り組みを行わせることができたか。	昨年度に引き続き、松川町内の保育園に花を届ける活動ができた。生徒自身が地域に貢献する取り組みを考えられるようにすることが課題である。		○	全校ディスカッションを通して、生徒が地域に貢献できることを自ら考える機会を増やしていく。また、生徒会が主体となり、松川町や地域住民と交流し、社会参加をする機会を設けていきたい。	
			生徒会活動の指導およびクラブ活動の指導を通じて、生徒の自発的意欲を養い自治能力を育成することができたか。	諸活動を生徒自身が主体的に計画・実施し成果を感じ取ることで、自発的、自発的精神を養う指導を試みている。また、自分たちの課題を常に自覚させ活動を行っている。学校の主役は生徒であり、自分たちが作っている場所であることをさらに意識させ取り組みたい。		○	自らの活動が何らかの目に見える成果として現れる工夫をすることによってより高い自覚を持てるよう全校参加の活動を計画する。生徒会役員のみならず、全校生徒が全員で作りあげる生徒会を目指す。	
	教育相談	①	教育相談の充実（不適応生徒への対応）	対応を必要とする生徒の状況の把握を行う体制が構築できたか。	生徒の状況把握については、週1回の係会や日頃から職員間での情報交換を心がけ、学年会、職員会にて共有することができた。保護者への連携を密にしていきたい。		○	教育相談活動に関し、職員間で共通理解を持てるように情報共有を行う。生徒の状況把握のため、保護者との連携をはかる。
関係者との連絡を密に取り、適切、迅速な対応ができたか。				教育支援の専門機関へつなぎ、アドバイスを受けることができた。生徒、担任、保護者と課題を共有し、よりよい方向に進むよう、さらなる理解協力を得ていきたい。		○	生徒について正確な情報の把握と共有をするとともに、教育支援の専門機関との連携を密に行う。専門機関について、職員や保護者に周知を図り、相談しやすい環境をつくる。	
保健	①	生徒の心身の健康管理と増進、保健衛生の確立	健康診断による生徒の健康状態の把握と、その結果をふまえて早期治療に結びつけることができたか。	疾病異常者だけでなく、必要に応じて2学期末の保護者懇談時を活用して保護者も含めた保健指導をすることができた。生徒の歯の衛生状態が悪い傾向ではあるが、全体的には学年を追う毎に改善しているように思われる。一人一人の問題として今後も改善を続けてもらいたい。		○	歯の衛生状態の悪さについては、高校入学前からの生活習慣や治療状態によるものも関係していると推察され、また高校生活での歯科保健については今後、原因を究明し、学校歯科医のご指導も頂きながら取り組んでいきたい。	
			思春期特有の健康問題について生徒自身が気づき、対処できるような指導ができたか。	1学年では県看護協会出前授業による性教育講話を実施。2学年は昨年度をふまえてDVDを視聴しワークシートで学びを深めた。3学年：卒業前の時期に外部から講師をお願いし講演をと考えていたが、新型コロナウイルス感染症が蔓延してしまい、今年度は難しい状況であった。今後も各学年毎の性教育を中心とした指導を検討していきたい。		○	1学年に対しては今年度同様、5月に県看護協会出前授業を活用して性教育の実施を計画。2年生については従来どおり性教育の実施。3年生については、卒業前の時期に保健講話の実施を計画。またスマホ依存の弊害について投げかけ、生徒会係とともにこの問題について生徒自身が考える機会を持ち、自己コントロールできる力がつけられるよう取り組む。	
			日常の健康観察や欠席、保健室来室状況から支援の必要な生徒に対し適切な対応ができたか。	新型コロナウイルス感染症対策での健康観察や感染防止対策に取り組めるよう、担任や部活動顧問等との連携を図り取り組んだ。欠席や保健室来室の多い生徒には職員が話を聴きスクールカウンセラーや専門機関への相談、受診を勧めた。		○	学校の「主役」たる生徒とともに進める新型コロナウイルス感染症の日常健康観察や感染対策の継続。また学年会や係会等での情報共有を密に行い、心のケアについても引き続き対応していくよう努めたい。	
			利用しやすい環境づくりができたか。	昨年引き続き、コロナ対策を行うとともに、閲覧室・司書室および外倉庫の整備・清掃を行った。		○	図書館へ導くための広報活動に重点を置いて取り組みたい。	
図書視聴覚	②	利用しやすい環境づくりと幅広い資料活用	自主的な探究心に応えられる資料を揃え、授業ほか幅広い利用支援を行えたか。	資料充実に努めたが、授業支援については図書館からの広報不足もあり、利用が減少したのが残念である。		○	整備されたICT機器の利用とともに図書資料の利用が並行して行えるような利用支援を考えたい。	
			視聴覚機器の充実と有効活用ができたか。	授業や部活動の場で有効活用してもらえた。		○	放送室の使用について、生徒に適切な使用を厳守するよう徹底したい。校内の放送機器について再度所在を確認し、老朽化した放送機器については修繕や設置を検討する。	
	① ②	視聴覚教育の充実 人権教育との連携	視聴覚教育・人権教育を通して、生徒の情操教育や学力向上に資することができたか。	合同芸術鑑賞会では、新型コロナウイルスの影響により中止となった。		○	新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、安全な環境の中実施できるように取り組みたい。また、芸術鑑賞観劇のマナーについても事前指導を徹底したい。	
教育活動	①	情報機器の活用体制	情報機器の有効活用が学校全体でできたか。	校務や授業・生徒会活動で、昨年度より整備が進んでいる電子黒板やタブレット端末の利用数が増加した。		○	整備されている情報機器を授業や行事で効果的に利用できるように、教員間で情報共有を行いたい。無線アクセスポイントの整備も進んでいるため、1人1台端末利用に繋げていきたい。	

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学校情報管理	①	個人情報の保護	情報を扱う際のリスクについて理解し、適切な個人情報の取り扱いができたか。	個人情報の適切な取り扱いができるよう情報セキュリティ研修を全職員が行った。職員の意識を高め、適切な個人情報の取り扱いができるようさらに研修を重ねる必要がある。			○	個人情報の取り扱いについて、職員研修を行いリスク回避の意識を高める。
		① 危機管理	防災・事故等に備えた危機管理体制の広報と定着ができたか。	コロナ禍という状況ではあったが、例年通りの形で避難訓練を行うことができた。スムーズにグラウンドへ避難することができたが、私語が見られたところは反省しなければならない。3年生に代表して消火訓練を行ったが、本物の炎を消火したわけではないので、火事の現場に遭遇したときに練習通りできるかは未知数である。			○	近年、日本中で大きな災害が起きている現状を考えると、避難訓練だけでなく日頃から防災の意識を高めておく必要がある。また避難訓練時の放送については緊急放送と校内放送を併用していく必要がある。予期せぬ災害に備えて、毎年ではなくとも特別な訓練をおこなう必要もあると考える。
環境美化活動	④⑤	清掃美化の徹底	生徒自ら、自発的に環境美化活動に取り組む姿勢を養い、校内美化の徹底を図ることができたか。	校内において「全校床磨き」や「HR教室のワックスがけ」といった美化活動を美化委員が中心となり行った。活動時には全校生徒、職員の協力が得られ全校の美化意識は改善していると考えられる。一方でロッカー上の荷物は放置気味であり課題である。			○	清掃活動の充実のために清掃用具の管理・補充を随時確認するとともに、私物の片付けや清掃への呼びかけを通して校内の美化意識を向上させていく。
		④⑤	地域における学校の果たす役割として、駅周辺と通学路の環境美化に努力ができたか。また、ごみの減量化、ごみの分別等ができたか。	野球部の自主的な協力により、通学路上の環境美化を行っている。ゴミの分別に関しては美化係がごみステーションでの分別活動を行っているが全校生徒の分別への意識はまだ低いため、今後よりいっそう呼びかけなどを通して意識の向上を考慮する必要がある。			○	分別への意識の向上が求められることから、呼びかけなどを通して分別の意識を全校生徒が持つよう活動を行う。また、生徒会美化委員が中心となり校内だけでなく清掃活動を行うことで学校周辺の環境美化と生徒間の美化意識の定着を図る。
人権平和教育	①④	① 個人を尊重し、いじめのない学校づくりを進める	いじめを容認しない、早期発見ができる人権感覚の育成を生徒の日常生活の実態に即してクラス・学年・学校全体を通じて重層的に行うことができたか。	年間行事予定にそって「人権学習」と「憲法学習」を実施できた。普段の授業や学年段階の学習でも差別を容認しない、人権意識を高めるための取り組みがなされた。			○	終息の見えない世界的パンデミックに対して全職員があらゆる機会を捉えて差別やいじめなどを許さない気運を醸成していく必要がある。係・学年・教科・部活動顧問で連携し、気になるところは日常的に話題にし、いじめの予防・早期発見に努める。いじめは決して許されないという姿勢を常に生徒に示し、予防的人権学習をおこない、啓発につとめる。
		④	人権平和教育を教科と教科外の各領域において関連をもたせ、実施することができたか。	地歴公民科や家庭科で人権に関する学習を深めたり、英語科で平和に関する資料を読ませたりした。平和の尊さを意識させる上で重要な取り組みができた。			○	次年度以降も教科と教科外の各領域において人権や平和を考える機会を設け、生徒の意識啓発に努めていきたい。今年度学んだ満蒙開拓の史実など身近な地域の歴史から学ぶテーマも必要と考える。
開かれた学校づくりと地域	⑤	保護者との意思疎通を図り、協力関係、信頼関係を築くことができたか。	昨年度同様コロナの関係で年間計画通り活動を行うことはできなかった。しかし多くの保護者の方から「学校のために何かしたい」という声をいただいた。			○	多くの保護者の方が参加をしたいと思うような魅力的な活動計画を提案していきたい。各ご家庭の環境に配慮し、PTA活動が負担にならないよう、実施時期や行事の内容について検討していきたい。	
		PTA諸会合・行事・学年・学級PTA等のPTA諸活動を充実させることができたか。	PTA諸会合・行事・学年学級PTA等のPTA諸活動はコロナ問題のため計画通り進めることができなかった。しかし環境整備作業には46名の保護者が参加してくださり充実した活動となった。			○	一斉メールやホームページなどにより、各行事の様子や楽しさが伝わるよう配信するとともに、家庭通知が必ず届くよう保護者のネットワークを駆使するなどして、各行事への参加者をさらに増やし、PTA活動を盛り上げていきたい。	
		保護者との連携を、生徒指導に生かすことができたか。	引き続きPTA活動の充実を生徒指導の礎にしていく必要がある。			○	「開かれた学校作り」「保護者・教職員一丸となって生徒を育てる」視点を常に持ち続ける必要がある。これからも保護者に積極的に学校へ足を運んでいただき、生徒の状況を共有しながら生徒の成長を支えていきたい。	
	地域との連携	環境整備事業、授業や生徒会活動・クラブ活動等での社会人講師の活用、地域の要請に応える講師の派遣などを通して、学校が地域に信頼される存在となり得たか。	コロナ禍の影響で様々な活動が中止となり残念であったが、松川町を中心とした地域との協働につとめ、少しずつではあるが地域行事との交流の機会を持つこともでき、有意義であった。今年度も、松川町から講師に本校にきていただき、講演をおして直接生徒に語りかけていただいた。			○	生徒会やクラブでの活動にとどまらず、生徒の自主的、自発的な活動をさらに促していきたい。また、その活動の受け皿となる地元自治体や企業との連携も深めていきたい。生徒会などを中心に進め始めた協働のための組織づくりを地域と共に進めるとともに、地域の要請に応える学校の人的資産の派遣などについても研究を進めていきたい。	
⑤	中学校に対して本校の教育方針や取り組みについて積極的にアピールすることができたか。	地区の中学3年生全員に進路情報(フルーツバスケット)を配布、近隣地域への配布等、積極的に情報の発信をした。ホームページでのアピールについて検討していく必要がある。			○	中学校の生徒・保護者・職員に対して積極的に情報を発信する。		
	学校ホームページのコンテンツの充実と情報公開を図ることができたか。	感染症対策における最新の情報をホームページで更新することができた。今後もホームページ更新操作ができる人員の確保・校内体制を検討する必要がある。			○	ホームページに最新の情報を公開できるように努める。学校生活の様子など、すぐに情報を集められるようなシステムを作っていく必要がある。		
	生徒・保護者・住民の学校参加	学校評議員会の充実を図り、生徒・保護者・住民との交流が深められたか。	昨年に引き続きコロナ禍の為、生徒・保護者・地域の方々との交流を深める機会が制限されてしまったことは残念であった。学校評議員会では前もって資料を送付し有意義な意見交換ができた。また、保護者・生徒対象の「匿名性を担保した学校評価」アンケート等をスマートフォンを使い実施した。回収率は昨年よりもさらに良くなり、貴重な意見をいただくことができた。			○	学校評議員・保護者の方々、生徒からの意見・要望等を職員で更に共有し、学校改善に反映できるように、各分掌担当とさらに綿密な連絡をとっていく。また、地域との交流に関しては「ウィズコロナ」を考慮しつつ、適切に地域にPRを続けたい。	